

平成28年度第2回刈谷市総合教育会議 議事録

- 1 日 時
平成28年10月27日（木）午後1時～午後1時50分
- 2 場 所
刈谷市役所 701会議室
- 3 議 題
(1) 新教育委員会制度について
(2) 意見交換
- 4 出 席 者
市 長 竹中 良則
教 育 長 太田 武司
教育委員会 教育長職務代理者 池田 裕幸
教育委員会 委 員 神谷 修
教育委員会 委 員 日下 ゆかり
教育委員会 委 員 畠 留美
- 5 欠 席 者
なし
- 6 会議構成員以外の出席者及び事務局
企 画 財 政 部 長 清水 一郎
教 育 部 長 間瀬 一芳
企 画 政 策 課 長 岡部 直樹
教 育 総 務 課 長 加藤 幹雄
学 校 教 育 課 長 神谷 拓生
企画政策課 課長補佐兼政策推進係長 高野 洋
教育総務課 課長補佐兼施設係長 塚本 吉郎
学校教育課 課長補佐兼学事・保健係長 加藤 重行
企画政策課 経 営 管 理 係 長 山口 繁
教育総務課 総 務 係 長 神谷 友理
企画政策課 主 事 （ 書 記 ） 伊藤 志穂
- 7 傍 聴 人
なし

(企画財政部長)

それでは始めさせていただきます。企画財政部長の清水でございます。皆様におかれましては、大変お忙しい中、刈谷市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、只今から平成28年度第2回刈谷市総合教育会議を開会させていただきます。会議に先立ちまして、刈谷市長の竹中良則よりごあいさつを申し上げます。

(市長)

皆様、こんにちは。市長の竹中でございます。

本日は大変ご多忙の中、総合教育会議にお集まりをいただき、誠にありがとうございます。気づけばもう10月も終わりに近づき、ほのかな金木犀の甘い香りから菊の香りへと移ろいを感じ、秋も深まってきたなと感じております。空気も随分と冷たくなってまいりましたが、時折、今日のような暖かい日もありまして、寒暖の差が大きいと子ども達の体調管理も大変で、風邪などがはやってきているという話も聞きます。皆様も体調など崩されてはいませんか。

今年は地震が多く発生し、4月に熊本地震、半年後の10月に鳥取県中部地震というように続いておりまして、大変心が痛むところであります。南海トラフ地震につきまして改めて心配になりますし、本当に常日頃から防災対策や準備が必要だと思っております。そして、台風につきましても、今年発生したのは現時点で22個と平年並みですが、6つも上陸したというのは12年ぶりのことであり、また、そのうち4つが北日本に上陸したという大変珍しい気象状況にあったようでございます。一方で、幸いにもこの地域に大きな影響はなかったことで、県内の農作物につきましては今年は非常に出来の良いもので、とりわけ米は、「あいちのかおり」が主なのですが、作況指数も103ということでありまして、本当にありがたいことだと思っております。

さて、最近の大変喜ばしいニュースといたしましては、去る7月1日に、人口が15万人を達成いたしました。昭和25年に、人口3万868人、愛知県内11番目の市としてスタートしてからおよそ65年での突破です。昨年行われました国勢調査の結果、全国的に人口が初めて減少に転じたという報道もありましたが、このように少子高齢化・人口減少時代においても、着実に人口を増やしてきているという、本市の住みやすさを証明するような大変名誉なことであると思っております。そして、9月26日には、人口15万人達成日となった平成28年7月1日に刈谷市でお生まれになった赤ちゃん4名とその保護者の方々を市役所にお招きし、「刈谷市人口15万人達成記念セレモニー」を行いました。みんな大変かわいらしく、やはり生まれたばかりの赤ちゃんというのは純真無垢で無邪気な様子で、こちらも心なごみ、自然と笑顔になって、この子たちの明るい未来と健やかな成長を願う気持ちが込み上げてまいりました。

本市が、活気のあるまち、にぎわいのあふれるまちであるためには、元気な子どもたちの存在をかかすことはできません。この総合教育会議におきましても、引き続き、未来を担う子どもたちが夢と希望を持ち続けることができるよう、私も全力をあげて取り組んでまいり

ますので、皆様のご理解とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（企画財政部長）

ありがとうございました。続きまして、10月1日に新教育委員会制度における新教育長に就任されました太田教育長よりごあいさつをお願いします。

（教育長）

皆様、こんにちは。一言挨拶をさせていただきます。

今ご案内いただきましたとおり、10月1日付で新教育委員会制度における教育長を拝命いたしました。これまでのご支援ご協力に感謝するとともに、また引き続きよろしくお願いいたします。現状としましては、教育委員会内や市長さんなどとの間において、風通しもよく特段の大きな問題はないと思っておりますが、この新教育委員会制度が成立したいわゆる大津いじめ事件に端を発します教育委員会の対応の遅さやずさんさなどについては、同じ教育委員会ですので真摯に受けとめて、この新制度になった背景や経緯、目的などは忘れずにやっていきたいと思っております。それでは、また後ほど、今後のことなどについてお話をさせていただく時間があるようですので、そこで更に詳しく話させていただこうと思っております。よろしくお願いいたします。

（企画財政部長）

ありがとうございました。それでは、議題に入らせていただく前に、本日の会議資料を確認させていただきます。

資料は、事前にお渡しさせていただいておりますが、本日ご持参いただいていない場合は、用意いたしますのでお申し付けください。

最初に、本日の次第、次に当会議の名簿、続いて、

資料1：新教育委員会制度について（A4 1枚）

そして、本日、机の上に配付させていただきました座席表でございます。資料の不足がございましたら、お申し付けください。

続きまして、本日の出席者につきましては、お手元の座席表をもって代えさせていただきます。

それでは、次第に従いまして議題に入らせていただきますが、これより議事の進行は竹中市長にお願いしたいと思います。

（市長）

皆様のご協力を得まして、円滑に進行してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。議題（1）「新教育委員会制度について」を事務局から説明をお願いします。

（教育総務課長）

それでは、議題（１）「新教育委員会制度について」説明いたしますので、お手元の資料１をご覧ください。

皆さまご承知のとおり、９月９日に開催されました本会議において、議会の同意を得て、平成２８年１０月１日付で、竹中市長から太田教育長が任命され、新制度での教育委員会運営が始まりました。資料上段の図にございますとおり、旧制度では、市長が議会の同意を得て教育委員を任命し委員の中から教育委員会が教育長を任命していましたが、新制度では、市長が直接教育長を任命することにより、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、教育委員会における責任所在の明確化や更なる市長との連携強化が図られるものでございます。また、資料下段では教育委員会における旧制度と新制度の変更点を記載しており、代表者、招集権者、可否同数の時の判断については、これまでの教育委員長から教育長に変更されることになります。

議題（１）「新教育委員会制度について」の説明は以上となります。

（市長）

制度が変わることにより様々な影響も出てくるかと思ひまして、新旧の状況をわかっている太田教育長に引き続きお願いしたいと思った次第です。

では、事務局からの説明内容についてなど、ご意見、ご質問はございませんか。

（神谷委員）

私たち教育委員４人は、拝命を受けて民間の者が非常勤として務めさせていただいており、一方、教育長はこの道のプロフェッショナルとして常勤でおられますので、今回、新教育長が設けられるという制度については、私は全く異存なく賛同しております。ただ、池田委員は教育長職務代理者ということで、万が一、教育長の席が空くような状況になったときには非常に肩の荷が重いかなとも思います。

先程、教育長も仰ったように、今回の制度改革は教育委員会の諸問題に端を発したものであり、その背景をふまえて、新教育委員会制度となるにあたっては、改めて、速やかに報告をするなど風通しのよい体制としていかないといけないと思っています。

（池田委員）

職務代理者という大役をいただいておりますが、教育長をはじめとして委員の皆さんと共に進んでいきたいと思っております。教育長には、ぜひとも健康で今まで通りご活躍をしてもらいたいです。よろしくお願いします。

（日下委員）

市長も仰ったように、新旧制度をわかっている方ですと様々な状況にも即時に適切な対応ができると思いますし、太田教育長がなられて本当によかったと、委員一同安堵しております。また、新教育長が決まる直前まで、市民の方に、どなたが新教育長となられるのかと本当によく聞かれまして、刈谷市民の関心の高さには驚かされました。

(島委員)

皆さんと同じ気持ちです。私自身も、委員として引き続きしっかりと務めていきたいと思っています。地域で聞いた情報などもありましたら皆さんにお知らせしたいと思っています。

(教育長)

ありがとうございます。身の引き締まる思いです。

(市長)

それでは、続きまして、議題（２）「意見交換」でございます。日頃の教育への思いや当会議へのご助言や感想など、どんなことでも結構ですのでお話しいただければと思います。では、教育長から順番にお一人ずつということでいかがでしょうか。

(教育長)

これから新しい教育委員会制度の中で、教育の行政を展開していくことになります。最近、教育再生実行会議が第１０次提言にむけて子供の自己肯定感をどう高めるかというテーマで議論を始めていくことになったのですが、まさに本市では自己肯定感や自己有用感に支えられた子どもを育てようと努めてきているところです。提言の背景としては、日本の子ども達は、高い規律をもっており、成績も世界でトップクラスで運動能力も年々高まってきているという状況にあるにもかかわらず、アメリカ、中国、韓国に比べると、自分に対して自信があるというパーセンテージが低いことを危惧してのものです。

私もずっと本市の子ども達を見てきて、学力テストも全国的にも劣るものではなく、科学や文化の面で全国的な賞も毎年一定数で獲得していること、歌にしても本当に能力があって、それらを発揮してきている子ども達なのですが、学力・学習状況調査の「あなたは自分が優れているところを持っていると思いますか」や「自分に自信がありますか」という質問に対しては、ただでさえ中国、韓国、アメリカよりもパーセンテージが低い日本の平均よりもまた少し低いという状況には、不思議で仕方ありません。学校訪問などをしても特段こういうことが原因かなとは思わないのですが、一つ思いましたのは、本市の不登校の子どもが増えはしませんが減りもしないということです。全国的にみると少ないのですが減らない。やはり、自分に自信がなく、少し学校で友達に言われたらそれがそのままドロップアウトに繋がってしまう、ということがあるのではないかと危惧しております。

そういった思いを抱いておりまして、自己肯定感・自己有用感をテーマに掲げさせていただき２年になるのですが、本当にどういう施策をうつといいのかとずっと模索しております。教育再生会議のこともふまえますと、まさしく日本の課題であり、また愛知県、そして本市の課題でもありますので、市長や教育委員の皆さんから気づいたことやアイデアをいただきたいなと思っております。それを教育委員会等で展開していくことによって、本市の子供が自信を持って高校・大学へ進み、大活躍ではなくても、「自分は頑張れる」や「自分はやれる」という思いを持った社会人になってほしいと思っております。

(日下委員)

子どもの心の成長を図るには、体力の向上との関係を見逃してはいけないと思います。休み時間に太陽の下で活動するということに意味があります。運動が苦手な子どももいるので、集団で遊ぶ機会を作ったり、競い合うことではなくて、フラフープとか一輪車などの整備や遊具も工夫をこらしたり、今月はドッジボールをやろうといったことをクラス単位で考えたりしてもよいのではないかと思います。子ども達を屋外へ誘い、運動することが習慣となるように、また、下校後はゲームやスマホで遊ぶことも多いため学校だけでも外で遊んでほしいというような思いであります。運動は好き嫌いにより個人差がどんどん大きくなるので、週に1回程度、放課後に学級全員で長縄などで遊ぶ機会を設けてはどうかと思います。

運動することにより、食欲が増し、嫌いなものにも少しずつ挑戦し食べられるようになるとも考えます。給食はとても大切ですし、アレルギーの対応も含め、食育と体を動かすことを結びつけながら積極的に推進していったほしいと思います。

(畠委員)

先程、教育長も仰ったように、本市の子ども達が特に理科の分野などで大変優秀な力を発揮してきている一方で、あまり自分に自信が持つことができないという状況にあることから、自己肯定感や自己有用感を高めるためにはどうしたらよいかと私なりに考えてみました。

基本的なことです。自分の考えをまとめ、それを外に発信できる力を育てるべきだと思います。まずは自分の思いを表さないと自分を認めてほしいという思いも伝わりませんし、あるいは相手を理解してあげることもできません。日々の学校の授業の中でそういった力を育むことが大切で、実際、学校訪問に伺ったときも、ペアやグループでの話し合いの活動など先生方がいろんな工夫をされているのを拝見し、私自身が学生の頃は先生が一方的に話し続けるという授業が多かったので、大変印象的で、ぜひ続けてほしいと思いました。

中学校での全校生徒による討論会を拝見させていただいた際には、自分の考えを堂々と述べる生徒はもちろん、司会の生徒のまとめ方もすばらしく、大変驚かされました。本市の子ども達は確実にそういった経験を積んできていると思いますので、先生方も自信を持って引き続き推進していただきたいと思います。

(神谷委員)

自己肯定感や自己有用感については、私もいくつか思うところがあります。まず、単に自分に自信がないというだけではなく、日本人の特性として控えめであることや「出る杭は打たれる」という風潮も挙げられるのではないかと思います。さかのぼると、農耕民族として毎年みんなで協力して耕作しながら生活してきた歴史からも、反対意見を言って和を乱してはいけないという本能のようなものがあると思います。また、日本人はノーベル賞受賞者も他国と比較しても多いのですが、それをひけらかすとか主張するといった人はいませんし、それはよいところなのでしょうし、難しいところです。

先程、畠委員も仰いましたが、最近の学校の授業ではグループディスカッションなども多

くこういったところでコミュニケーション能力などが培われるのかと思いますが、そのような中で、自分の主張がかき消されるようなことがあったとき、子ども達はどう反応することが考えられるでしょうか。やはり「出る杭は打たれる」という、周りも打つつもりはないのだけれど、結果的に折れてしまう状況があると思います。私は「出る杭は打たれる」のなら、出すぎてしまえばいいのでは、つまり、没個性や人の指示通りにしか動けない人になってしまうよりは、自分の主張やこだわりを大事にしてほしいとも思ってしまうわけです。

さらに、少し気になりますのが、例えば競走などで、なんでも横並び方式といって優劣をつけずにおくのは、やる気の阻害につながっているのではないかと感じます。勝つ喜びや負けるくやしき、それから、頑張った友達を称え、不得手な友達を思いやる気持ちなどはとても大切だと思います。

(池田委員)

日本青年研究所の「高校生の生活と意識に関する調査」アンケートによると、日本の高校生の72%が自分を駄目な人間だと思うことがあるという結果が出ています。もちろんこれがすべてだとは思いませんが、例えば隣国の韓国と比較すると倍以上の数値だそうで、先程、教育長も仰っていましたが、私も大変驚かされました。また、神谷委員も仰ったとおり、これは日本人の国民性もあると思いますが、その上で、グローバル化を迎えている今、外国の方などと対等に議論し、意見を述べるができるようになることも必要だと思います。

自己肯定感と自己有用感を育むためには、子ども自身が自分は大切な存在であると感じられることが大切ですが、その阻害要因として、優劣だけで子ども達を見てしまうということがあると思います。人には個性があり成長の速さも千差万別ですので、子ども達一人ひとりを軸として心と体の成長を周囲が認めていくことに意味があると考えます。そういったことに関する積極的な援助をお願いしたいですし、私自身も取り組んでいきたいと思っています。

(市長)

皆様、ありがとうございました。

(教育長)

ひとつ、よろしいでしょうか。先程、日本の子ども達の自分に対して自信があるというパーセンテージが低いという話をさせていただきまして、数値としては、全国や県が約75%で、本市はそれより約3%低く71~72%だったかと思いますが、私は、この現状とは向き合いつつも、ただ数値だけに捉われてはいけないとも思っています。例えば、授業の中でぱっぱと挙手して発言しようとする子もいれば、理解はしているが挙手はしないというスタンスの子もいます。どちらも個性でありそれぞれにいいのではないかと思います。私は、アンケート数値には表れなくても、子ども達が、小中学校の9年間でほんの少しずつでも、自信を持てるようになってたり、あるいは挑戦していこうという内なる思いが芽生えたりしてくれるようであればいいなと思います。

(市長)

皆様のお話をいろいろと聞かせていただきまして、やはり子ども達には何が一番根底に必要なのかということを考えさせられます。自己肯定感と自己有用感は、言葉を変えたら自信や誇り、プライドといったことであるとも思いますので、そういったものが持てる子供に育てていくということが具体的な方向付けかと思います。先程、話にも出ましたが、競争を好まないというのは聖徳太子の和を以て貴しとなすというような、日本人の基本的な精神に基づくものかもしれません。自信や誇り、プライドが身に付くことによって、人生の中でも自信を持って大人になっていき、そこに更に体力も学力も何もかもが一緒に身に付いてくるのではないかと考えているところであります。

さて、そういう子どもをどのようにして育てていくのかということになりますと、これはまた大変難しい問題なのですけれども、なかなかそのように育っていかないのには大人にも責任があると思います。子ども達に見せる大人の背中が、自信や誇りがなく、負けているようであると、子どもにも大きな影響を与えてしまうのではないかと思います。

東日本大震災の際に、日本中で「心は誰にも見えないけれど心遣いは見える 思いは誰にも見えないけれども思いやりは見える」という言葉をよく耳にしましたが、これは、思いやりなどを持って行動すれば皆に伝わっていくのだということ、すなわち、自信や誇りを持って思ったことをやっていきなさいですとか、考えたら行動に移していきなさいということを表しているのだと思います。

(神谷委員)

私からも、もう少しよろしいでしょうか。学校訪問等に伺った際に思うことが、子ども達は本当によく気持ちのいい挨拶をしてくれるということです。ただ、小中学校の子ども達は率先して向こうから言ってくれるくらいなのですが、高校生になると途端に無頓着になってしまうように感じ、とてもさみしく感じます。これは、照れくささや恥ずかしさからでもあるのですが、自分達に注意する立場である大人達がやっていないのという思いもあると思います。それが不信感や大人になりたくないというような思いに繋がり、自信や誇り、プライドといったものが、例えば小中学校時代だけのことというような、限られた時期だけのものになってしまうのではないかと危惧しております。これは挨拶だけに限ったことではないのですが、我々もまずは挨拶をするといったところから心掛けていくことは非常に大切だと思います。

(市長)

刈谷の警察署長などからも、刈谷の子ども達は、横断歩道で止まってあげた時などには必ず「ありがとうございました」と元気よく挨拶をしてくれると言っただけまして、大変誇らしく思います。それが高校生くらいになるとできなくなってしまうのですね。

(神谷委員)

先程も話に出ましたが、自己肯定感や自己肯定感を持てないというのは、「控えめ」とか「謙

譲の美」といった日本人の特性もあると思いますので、そこは良しとすべきですし、難しいですね。

(教育長)

それに近いことで聞いたことがあるのですが、幼少から海外で過ごしてきた帰国子女が日本の学校に転入すると、文化や価値観の違いに大変戸惑ってしまうようですね。

(市長)

皆様、たくさんのご意見をありがとうございました。それでは、全体を通してのご質問等がございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。それでは事務局にお返しします。

(企画財政部長)

では、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。次回は2月15日(水)を予定しておりますので、既に通知させていただいておりますが、改めまして日程の確保をよろしくお願いします。

本日はどうもありがとうございました。